新世紀のキャンパス
Campus of New Century

京都造形芸術大学・東北芸術工科大学 外苑キャンパス

明治神宮外苑の環境に溶け込むように設計されたキャンパス外観。樹齢100年を超えるという樹木類をなるべく残すよう設計した。

もとは林だった場所に建てたため，裏庭にも緑があふれ最高の環境だ。

ガラスサッシを開放することで，展示会やガーデンパーティーなどに使用できる中庭。

2010年7月にオープンした外苑キャンパスは，京都造形芸術大学（京都）と東北芸術工科大学（山形）の姉妹校が共同で東京に設けた新拠点だ。「弥生の京都」と「縄文の山形」を地盤に“芸術立国”を志す両大学が教育力を結集し，首都東京から，教育活動を通じて両大学の考え方を発信する。新拠点には，通信教育課程のスクーリングのほか，新たな社会人教育を行う「東京芸術学舎」と「東京企画構想学舎」，研究型の発信機能「PROJECT INSTITUTE」を3つの柱とした“日本文化芸術研究センター”を設置，両大学のスタッフが協働で事務局を運営する。

京都で行う通信教育は正規課程のみで社会人にはハードルが高く，芸術系の通信教育は一般の大学のそれに比べ授業料も高額なので，広く一般に普及しづらい点がある。そこで，関東圏の社会人がもっと手軽に芸術を学ぶ機会を設けたいと始めたのが，東京芸術学舎である。ここでは，興味のあるプログラムを自由に選択できるエクステンション授業を展開。一つひとつのプログラムの基本単位を隔週で5回，3カ月間とすることで受講負担も軽減している。学習領域は「文化・伝統」「美術」「デザイン」「ライフスタイル」の4学科で，学科長にそれぞれ松平定知氏，宮島達男氏，榎本了壱氏，松任谷正隆氏と多彩な人材を揃え，教育の質にこだわった。一方，京都の通信教育部の学生約5500人のうち，4割を関東圏在住者が占めるので，東京芸術学舎ではそのスクーリングと単位連携も行っている。

東京企画構想学舎は，山形で2009年度開設された企画構想学科の社会人版と位置づけ，学科長の小山薫堂氏を中心に設計された。「仕事をするということは，職種は違えど，今まで誰も考えなかったアイデアを形にし，それが評価されるという点で同じ。そのための『企画力』を教える，新たな社会人教育を実践したい」との小山教授の思いに賛同したのが，二人の人気クリエーターだ。伊藤直樹学科，高松聡学科と名づけられた2つの学科には，20～30代の社会人が殺到。特に高松氏は，講座のために自ら資本金を出資し会社を立ち上げ，受講生と一緒にコンテンツを商品化している。「講師の『絶対におもしろくする』という熱意が教育内容に色濃く出ており，受講生を惹きつけている」と髙久正史理事は語る。

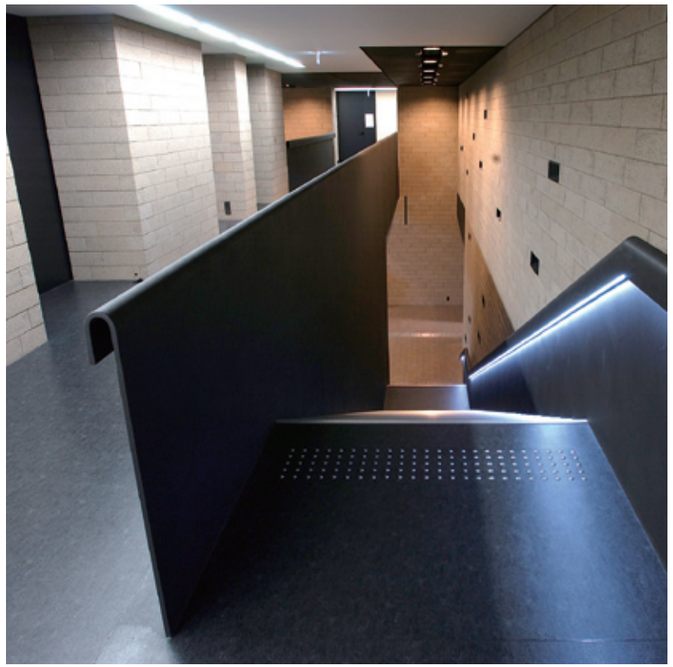
PROJECT INSTITUTEでは，現代の社会問題をテーマに，第一線で活躍する講師が研究発表を行っている。来期以降は，京都と山形で展開する“こども芸術大学”をもとに，母と子が一緒に学ぶプログラムを実験的にスタートさせる。さらに，東京から京都や山形へフィールドワークに出かけるトラベルスタディプログラムも構想中だ。アイデアには尽きるところがない。

（取材・文／本誌 能地）

中庭を2階から眺める。春は枝垂桜，秋は紅葉を楽しむことができるという。

裏庭の緑を借景にした開放的なロビー。週末はスクーリングの学生でいっぱいになる。

吹き抜けの階段の壁には，採光窓がリズミカルに並ぶ。



北側採光のデッサン教室。モデル台に人が立つため天井高は高く，自然光を補助する蛍光灯，完全遮光または視界を遮り光のみ通すカーテンなど，質実剛健の設備。

建築系の学科生がCADのオペレーションを学ぶパソコン教室。

2階建ての館内には教室が17室あり，写真は実技演習を行う20人規模の小教室。

この記事は参考になりましたか？ご意見をお聞かせください

※ご使用の環境によってはセキュリティ警告が表示される場合がございます

ご意見・ご感想フォームを開く